

富士のさと 森のくらし TAX キャンプ

～みんなでつくる、みんなでつながる富士のさとライフ～

令和7年10月18日(土)～19日(日) 1泊2日



1. 目的

森のくらしをしながら自然体験活動の楽しさを知るとともに、税金やお金の流れのしくみについて楽しく学び、多くの人々が協力して社会生活を構成していることを自分事として学ぶことを目的とする。

2. 参加者

11名

〈内訳〉

小学5年生…5名(うち男児1名、女児4名)

小学6年生…6名(うち男児5名、女児1名)

3. 協力

沼津税務署、御殿場市選挙管理委員会



4. 事業内容

10月18日(土)	10:30 開会式	11:00 移住手続き	12:00 昼食	13:00 富士のさとからの挑戦! ミッションをクリアして「フジー」※を集めよう!	17:30 夕食	18:30 税金って何だろう?	20:00 入浴 フリータイム	21:30 消灯
10月19日(日)	6:30 起床・準備	7:30 朝食づくり	8:30 富士のさとからの挑戦! ミッションをクリアして「フジー」※を集めよう!	11:00 富士のさと名物! みんなの「フジー」※で鍋パーティー!	14:30 振り返り	15:00 閉会式		

※フジーとは、本キャンプで使用した通貨の名前です。

(1) 移住手続き(1日目 11:00~12:00)

本キャンプのルールを理解し、世界観に没入してもらうことを目的に、スライドショーや動画を用いてオリエンテーションを行った。自分で稼いだ「フジー」(本キャンプで使用した疑似通貨)を使って2日間生活することや「つながりシステム」(本キャンプでは税制のこと。実際に徴収する税は「つながり料」とした)の仕組みについて説明した。その後、つながり料の徴収割合を決めるために、2人の候補者の演説を聞き、投票を行った。その結果、より税率が高い「ミッションをクリアして獲得した報酬のうち30%をつながり料として納める」施策が選ばれ、もう一方の施策(10%)よりも高福祉高負担のつながりシステムで2日間を過ごすこととなった。



(2) 富士のさとからの挑戦！ミッションをクリアして「フジー」を集めよう！ (1日目 13:00~17:30、2日目 8:30~11:00)

・ミッション

13種類のミッションの中からどれを実施するかを参加者が選択し、それぞれのミッションに設定されたクリア条件を達成することで報酬を獲得した。ミッションは自然体験活動を中心に、普段の生活や遊びでは体験できないことを用意したほか、清掃や施設で使用している備品の整備等もミッションに含め、誰かのために働いて報酬を得ることの喜びを感じられるようにした。選択肢が多くなり、最後まで飽きることなくミッションに取り組んでいる様子が印象的であった。



・納税

「生活のために支払うもの」として電気・水道代やごみ回収代などを設定し、それらを参加者から集めたつながり料から支出するようにキャンプを進めた。参加者はミッションをクリアして報酬を獲得するたびに、獲得した額の30%を「つながり料ボックス」に入れる仕組みで納税を行った。



・アイテム購入、自由遊び

ミッションをクリアして獲得した報酬を使用し、その場で遊ぶことができる遊具（ボール、モルック等）やミッションクリアのバリエーションを増やすための道具（キンドリングクラッカー、ライター等）のレンタル、記念に持ち帰れるもの（缶バッチ、バンダナ等）を購入できるようにした。また、時間の使い方は個人に任せ、ミッションに没頭したり、稼いだフジーで買い物を楽しんだりする他にも自然を眺めたり、本キャンプでできた友達とコミュニケーションを楽しんでいる様子も見られた。さらに、テントのレンタルも行い、希望者はテント泊を行った。



(3) 税金ってなんだろう？ (1日目 18:30~20:00)

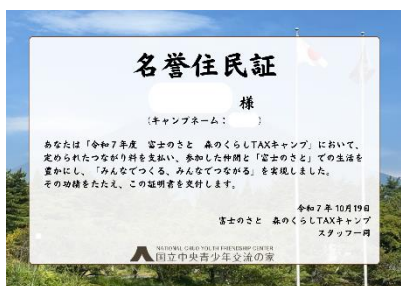
講師：渡邊 雅人 氏 (沼津税務署 税務広報広聴官)・大石 侑香 氏 (御殿場市選挙管理委員会 書記)

キャンプで体験した「選挙を行う」「納税する」という行為が実生活においてどのような形で行われているかについて、講義・討議形式で学んだ。身の回りで税金を使用しているものや税金の役割について知った後に、税と選挙の関係について、実際の選挙で使用されている投票箱を用いた模擬選挙を実施する等の体験を交えて学んだ。最後に「公平」について考える討議が行われ、公平な社会にするための仕組みが税制であり、多様な考え方を「代表を選出する」形でまとめることが選挙であると学んだ。



(4) 富士のさと名物!みんなの「フジー」で鍋パーティー!(2日目 11:00~14:30)

共に2日間を過ごした仲間をねぎらい合う目的で鍋パーティーを実施した。多くのボランティアや職員が事業運営を行っていたため、火起こし、調理といった役割分担は参加者がやりたいことを実施でき、2日間のキャンプを締めくくる活動として食事やそれまでの過程を楽しんでいた。キャンプの最後には、納税によって参加者全員の生活を豊かにした証として「名誉住民証」を授与し、2日間の締めくくりとした。



5. 事業の成果

(1) アンケート結果(一部抜粋)

本キャンプでは、【①社会の仕組みへの興味関心と理解】【②自然体験活動の推進】という2つの事柄について、参加者の現状把握及びキャンプで何を学んだか、感想を分析し、「自然体験活動×租税教育」プログラムの成果について考察した。

◎事前アンケート(11名が回答/回答率100%)

1. 税金などの社会の仕組みの難易度について(選択形式)

- とても難しいと思う…5名(45%)
- 難しいと思う…5名(45%)
- あまり難しいと思わない…1名(9%)
- 難しいと思わない…0名(0%)

2. 税金などの社会の仕組みに対する興味について(選択形式)

- とても興味がある…1名(9%)
- 興味がある…9名(82%)
- あまり興味がない…1名(9%)
- 興味がない…0名(0%)

3. 家庭で税や選挙等の「社会の仕組み」に関する話をしたことがあるか(保護者回答、選択形式)

- 頻繁にする…0名(0%)
- 時々する…5名(45%)
- したことがない…6名(55%)

4. 屋内での遊びと屋外での遊びでは、どちらの方が好きか（選択形式）

- 屋内での遊び…1名（9%）
- どちらかと言えば屋内での遊び…6名（55%）
- どちらかと言えば屋外での遊び…3名（27%）
- 屋外での遊び…1名（9%）

5. 屋外で遊ぶとき、どんな遊びをすることが多いか（複数回答あり、括弧内は回答数）

- 鬼ごっこ（3）
- バレーボール（3）
- ドッチボール（3）
- バドミントン（1）
- 泥団子づくり（1）
- 一輪車（2）
- 自転車（1）
- あまり外で遊ばない（1）

◎事後アンケート（11名が回答／回答率100%）

6. TAX キャンプの満足度について（選択形式）

満足…10名（91%） やや満足…1名（9%） やや不満…0名（0%） 不満…0名（0%）

7. 1. の理由（記述形式・同様の回答は除いています）

- ミッションができたから
- フジでいろんなものを買えたから
- お金を稼ぐことや、仕事（ミッション）をすることにやりがいを感じられたから
- 友達とたくさん遊んだから
- まき割りが楽しかったから
- ミッションをすることで、いつもは体験できないことができたから
- 税金などについて知ることができたから
- 楽しかったから
- 鍋パーティーやミッションが楽しかったから
- みんなでミッションを行ったり、テントで泊まったり、税の仕組みや選挙の仕組みがわかったから
- 知らなかった人と仲良く、楽しく過ごせたから
- みんなでミッションをやって、お金を貯めるのにどれだけ時間、体力がかかるかがわかったので、これからは何のためにお金を使うか、何円かかるかを考えてお金を使おうと思ったから

8. キャンプを終えて、税や選挙への興味関心について（選択形式）

もっと知りたいと思った…9名（82%） あまり知らなくてもいいと思った…1名（9%）
その他…1名（9%）

〈その他の回答〉

- このキャンプで少し知ったから、これ以外知らなくても基本のことを知っていたらほとんどわかると思ったから

9. 8. の理由を教えてください（記述形式・同様の回答は除いています）

〈「もっと知りたいと思った」と回答した参加者の理由〉

- 選挙のことをもっと詳しく知りたいと思ったから
- （税や選挙の）仕組みがしっかりとしていると思って、もっと詳しい仕組みを知りたいと思ったから
- 税のことをたくさん知ることができたが、たくさん疑問が生まれて調べたいと思ったから
- 選挙をどうやって行っているかを知ることができたから
- 日頃の生活でも関わってくるから
- 投票用紙の秘密や税の仕組みなどを知ることができて、疑問が生まれたから
- 最初は税や選挙の仕組みはよくわからなかったが、キャンプを通して理解できたから
- 税は、自分が知らないことがたくさんあると思うので、もっと知りたい。選挙は、実際にお母さん、お父さんと一緒に行ってどんな所かを知りたいと思ったから

〈「あまり知らなくてもいいと思った」と回答した参加者の理由〉

- 消費税や所得税等だけでいいと思ったから（複雑だと思ったから）

10. 今回実施した自然体験活動を、普段の遊びでもやってみたいと思うか（選択形式）

とても思う…6名（55%） 思う…3名（27%）
あまり思わない…2名（18%） 思わない…0名（0%）

11. ミッションの中で印象に残っていることについて（記述形式・同様の回答は除いています）

- 落ち葉、枝集めの時に、いろんな葉があった
- まき割り、ウォークラリーが楽しかった
- 焼き板をたくさん作ることができた
- 火おこしが難しかった
- 丸木の切り出しをするときに、とても力が入った
- 火おこしが楽しかった
- 燭台の蝋を落とすミッションが特に楽しかった
- 丸木の切り出しの時に、のこぎりは引くときに切れるということを知った
- ウォークラリーの課題で、紫色、透明のものを見つけるということが難しかった
- ウォークラリーで、自分で見たことがないようなものを見ることができて、面白かった
- 鍋洗いのミッションで、黒い汚れを落とすのが大変だった
- 知らない人と協力したり、仲良く話したりしながらミッションに取り組んだ
- ウォークラリーをやって、交流の家にはたくさんの色、植物があることを知った

12. 本キャンプの中で最も印象に残っていることについて（記述形式・同様の回答は除いています）

- ・自然と触れ合えたこと
- ・ミッションの内容が面白かった
- ・森のあそび場づくりでブランコを上手に作ることができたことが面白かった
- ・演説の内容が印象に残っている
- ・火おこしが楽しかったこと
- ・フジで買うことができるものを増やしてほしい
- ・燭台の蟬落として、たくさん固まっている場所をとったとき、気持ちよかった
- ・友達と一緒にミッションをやって、フジを稼いで、買い物をしたこと
- ・テントを組み立てて、泊まったこと
- ・初めてなたを使ってまき割りをした
- ・フジをたくさん稼いだことが印象に残っている

(2) 結果の考察

(1)の結果と併せ、事業運営に協力したボランティア、職員による観察や聞き取りを行った内容を考察した。

・社会の仕組みへの興味関心と理解について

項目1～3の結果から、参加者は税金や選挙等の社会の仕組みは難しいが、学ぶ必要性を感じており、学校以外の場で学ぶ機会を望んでいたということが推察できる。その上で、項目7の回答から、報酬を獲得したこと、獲得した報酬で買い物をしたことが印象に残っており、自立して生活する体験を楽しんでいたことがうかがえる。また、項目8より、税や選挙への興味関心が高まったとする回答が過半数を占めている。参加者から「つながり料をたくさん支払っているから入浴代が無料になった！」という声が上がっていたことや、項目9への回答で税や選挙が日常生活に必要であることに改めて気づいた、税や選挙のことを知る機会を経てもっと知りたくなったという感想があったことから、体験して感じたことを講義で深めており、参加者が本キャンプを通して税や選挙について自分事として学ぶことができ、主権者教育への内発的動機づけになったと考えられる。

・自然体験活動の推進について

項目4、5の結果から、普段屋内で遊ぶ機会が屋外と比べて多いこと、屋外の遊びでもスポーツを楽しむ機会が多く、自然体験活動においては普段から遊びとしてほとんど体験していないことが分かった。項目10において、過半数が本キャンプで体験したことを普段もやってみたいと回答しており、自然体験活動に魅力を感じている、あるいは本キャンプを通して感じたことが分かった。項目11では、新たな気づきや困難に出会っている様子をうかがうことができ、キャンプ中の参加者の様子として、落ち葉・枝・ごみ拾いミッションの「珍しいものを拾ってきたらボーナスが獲得できる」という課題に対し、小さな蜂の巣の抜け殻を拾ってきて、「すごいものを拾った！」と感動し、しばらく周囲の参加者と蜂の巣がどのような作りになっているかを興味深く観察している瞬間に立ち会った等から、本キャンプでの体験を通して、参加者は自然体験活動の楽しさを知り、「生きる力」の要素である「自ら課題を見つける」「考える力」「感動する心」等を育むことができたと考えられ、自然体験活動の有用性や必要性を実感することができた。

6. 運営における成果と課題（○…成果 ●…課題）

- 参加者主導でキャンプを進めるために、ボランティアの人数を参加者と同数程度募集し、最終的に12人のボランティアが参加した。事前研修で各ミッションの内容や安全管理の視点を共有し、当日は参加者と同じプログラムを体験する「先輩住民」として参加者視点で事業に参画した。これにより、同じ目線で考えや感動を共有できたことに加え、共にミッションに取り組んだことで安全管理も的確に行うことができた。
- 自分でやりたいことを選択して進めていく事業の特性から、時間に追われたり、誰かと無理に協調したりする必要がなく、参加者個々のペースで終始ゆったりとした雰囲気ですべてが進んだ。集団行動が苦手な参加者もいたが、集団の活動と個人の活動のバランスを考えたことにより、メリハリをつけてプログラムに取り組んでおり、参加者に対して心地いい居場所を提供できた。
- これまでに当所が連携してこなかった「沼津税務署」「御殿場市選挙管理委員会」に協力を仰いで事業を実施したが、狙い通りの効果を生むことができた。事前に複数回打合せを行い、それぞれが現在やっていること、今回やりたいことのすり合わせがうまくできたことが、成果につながった。
- ミッションを成功させて報酬を多く獲得し、税を支払うシステムはうまく機能したが、獲得した報酬を何に使用するのか、収められた税はどのように使われるのかという点の設定が不十分であった。支払った税が生活のどこかで還元されている意識を持つことができるような工夫が必要である。
- ミッションの内容について、火に関わるものが多いことや、森遊びの場づくり・ルール設定が不十分であった。自然体験活動を推進していくためには、多様な活動を用意する必要がある一方で、活動エリアや安全管理についても吟味する必要があるため、もっと子供目線で考え、今回の事業の反省を踏まえて検討していく必要がある。
- 報酬の支払いや納税窓口、ミッションの案内等を行う本部の運営体制が不十分であった。当初は職員3名、ボランティア2名を担当として割り当てていたが、巡回や記録作業、予定外の対応等でかなりの負担がかかった。次回以降は計画時に細かく役割を割り当て、組織的に運営できるようにする必要がある。
- 子供が発見した物事をその場で深められる仕掛けづくりが必要である。今回の場合、ウォークラリーで見つけた「これまでに見たことのなかったもの」をその場で調べられるようにする等、ICT機器の活用と併せて検討していくことで、探究的な学びにもつながることが期待される。